

工学部 情報工学科

■目的・目標

情報工学科は、『情報技術を積極的に活用した実践的双方向教育』を教育理念としています。情報技術を駆使して豊かな社会を実現するために、ネットワークコミュニケーション、コンピュータ応用システム、アプリケーションソフトウェア、マルチメディアシステムなど、さまざまな分野で活躍できる情報技術者を育成します。

■アドミッションポリシー

情報技術で社会に貢献できる人間になりたいという志、情報技術のみならず幅広い学問領域に積極的に取り組む好奇心、そして失敗を恐れないチャレンジ精神を持ち、自分の資質に磨きをかけながら情報技術者をめざす個性豊かな皆さんを待っています。

■カリキュラムポリシー

情報工学科では、高度に発達した現代の情報化社会で活躍できる実践力の養成を目標に、Project Based Learning (PBL、プロジェクト型学習) による体験学習を中心とするカリキュラムを用意します。

1. 入学時から徹底したプログラミング教育を実施。
2. 専門の技術にふれるゼミナール形式の体験学習と、数学・物理・英語を専門に関連付けて学ぶ融合科目による充実した基礎教育。
3. 21世紀を担う国際的エンジニアをめざす実践的英語教育。
4. 地元の小・中学校、福祉施設、自治体などで、情報技術を活かしたボランティア活動に取り組み、コミュニケーション能力や自ら考え行動する能力を身につける「情報ボランティア」。
5. 自治体やNPOから依頼を受けてシステムの設計、開発、導入、保守・運用に取り組むプロジェクト型実践教育「システム設計・開発実習」。
6. 1年次から3年次までの一貫したキャリア教育による就職対策。
7. 取得した資格（「基本情報技術者試験」など）を専門科目の単位に認定。

■ディプロマポリシー

情報工学科では、情報処理技術者として、得意分野をもち、課題発見能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、およびチームで仕事をする専門能力が、職業人として活躍できるレベルに達したことをもって卒業を認めます。そのために3つの専門コースを用意し、それぞれに目標を定めています。＜コンピュータ・ネットワークコース＞の学生には、ネットワークコミュニケーションを支える情報通信技術と、コンピュータ応用システムを実現するハードウェア、ソフトウェアに関する技術の習得が求められます。＜ソフトウェアデザインコース＞の学生には、様々なアプリケーションソフトウェアの要求定義、分析・設計・開発に関する技術、管理・運用方法を習得することが求められます。＜ヒューマンメディアコース＞の学生には、様々な情報の表現方法、メディア作成技術、コンテンツ制作技術など、マルチメディアシステムの設計・開発に必要な技術を習得することが求められます。卒業時に求められる能力を総合的に習得するために、コース共通で配置された実践的な実習科目を必修とします。また、この目的に沿い、1年間、指導教員の下で、じっくりと研究に取り組む「卒業研究」を必修とします。